

使用指導のポイント

前頁の質問から使用可能な方には、
次のことを守って使用するようにご指導してください

- (1) 定められた用法・用量を厳守してください。
- (2) 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないでください
アスピリン（アセチルサリチル酸）、アスピリンアルミニウム、エテンザミド、イブプロフェン、ロキソプロフェンナトリウム水和物、アセトアミノフェン及びイソプロピルアンチピリンを含む他の解熱鎮痛薬、かぜ薬及びアリルイソプロピルアセチル尿素、プロモバレリル尿素を含む鎮静薬
- (3) 服用後、眠気、めまい、一時的な視力低下感があらわれた場合は、乗物又は機械類の運転操作をしないでください
- (4) 服用前後は飲酒しないでください
- (5) 長期連用しないでください
- (6) 1～2回服用しても症状がよくなる場合、一度症状が治まってもその後症状が繰り返される場合は服用を中止し、医師又は歯科医師の診療を受けてください

- 成分・分量： 有効成分 アルミノプロフェン・・・200mg
添加物として乳糖、トウモロコシデンプン、ヒドロキシプロピルセルロース、タルク、ステアリン酸Mg、ヒプロメロース、マクロゴール、白糖、炭酸Ca、ポビドン、酸化チタン、カルナウバロウを含有します。
- 効能： (1) 関節痛・腰痛・肩こり痛・咽頭痛・頭痛・歯痛・抜歯後の疼痛・耳痛・神経痛・筋肉痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・月経痛(生理痛)・外傷痛の鎮痛
(2) 悪寒・発熱時の解熱
- 用法・用量： 症状があらわれた時、成人(15才以上)1回1錠を、なるべく空腹時をさけて服用します。通常1日2回までとしますが、再度症状があらわれた場合には3回目を服用できます。服用間隔は4時間以上おいてください。

錠剤の取り出し方

右図のように錠剤の入っているPTPシートの凸部を指先で強く押して裏面のアルミ箔を破り、取り出してお飲み下さい。(誤ってそのまま飲み込んだりすると食道粘膜に突き刺さる等思わぬ事故につながります。)



副作用被害救済制度のお問い合わせ先
(独)医薬品医療機器総合機構
<http://www.pmda.go.jp/kenkouhigai.html>
電話 0120-149-931 (フリーダイヤル)

本製品についてのお問い合わせは、お買い求めのお店又は下記にお願い申し上げます。
佐藤製薬株式会社 お客様相談窓口
電話 03(5412)7393
受付時間：9:00～17:00(土、日、祝日を除く)

肩、腰、ひざなど炎症性の痛み
飲んで速く効く!

ルミフェン®

適正使用のチェックシート

第1類医薬品

次の方には使用させないでください

- 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある方
- 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある方
【アルミノプロフェン、アスピリン(アセチルサリチル酸)、アスピリンアルミニウム、エテンザミド、イブプロフェン、ロキソプロフェンナトリウム水和物、アセトアミノフェン及びイソプロピルアンチピリンが含まれている解熱鎮痛薬やかぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある方】
- 15才未満の小児
- 次の診断を受けた方
胃・十二指腸潰瘍
- 出産予定日12週以内の妊婦

上記にあてはまらない方

次の方の使用には注意し、 場合によっては医師に相談するようにご指導ください

- 医師又は歯科医師の治療を受けている方
- 妊婦又は妊娠していると思われる方*
*妊娠中の投与に安全性は確立していません。
- 授乳中の方
- 高齢者
- 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある方
- 次の診断を受けた方
血液の病気、肝臓病、腎臓病、心臓病、気管支喘息、潰瘍性大腸炎、クローン病
- 次の病気にかかったことのある方
胃・十二指腸潰瘍、血液の病気、肝臓病、腎臓病

上記にあてはまらない方

ルミフェン®

を使用できます。



使用上の注意と解説事項

「ルミフェン」をご使用いただく際の使用上の注意と解説事項です。

お客様には下記の事項をよく読み、それを厳守した上で製品を使用いただくようご指導ください。

してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなります)

使用上の注意

解説事項

1. 次の人は服用しないでください	
(1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。	過去に本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことのある人が本剤を再度服用すると、同じ症状を発現する可能性があるため。
(2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。	非ステロイド性抗炎症薬が気管支ぜんそく発作（アスピリン喘息）を誘発することがあるため。
(3) 15才未満の小児。	本剤は成人（15才以上）を対象としていることから、使用者へ注意喚起をするため。
(4) 次の診断を受けた人。 胃・十二指腸潰瘍	消化性潰瘍のある人が本剤を服用すると、プロスタグランジン生成抑制作用により、胃の血流量が減少し消化性潰瘍を悪化させることがあるため。
(5) 出産予定日12週以内の妊婦	妊娠末期のラットに投与した実験で、胎児の動脈管収縮が報告されているため。
2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないでください 他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬	他の一般用医薬品と併用することにより、本剤の薬理作用を増強したり、副作用を増強したりするおそれがあるため。
3. 服用後、眠気、めまい、一時的な視力低下感があらわれた場合は、乗物又は機械類の運転操作をしないでください	医療用アルミノプロフェン製剤で認められている副作用であり、使用者へ注意喚起をするため。
4. 服用前後は飲酒しないでください	一般的にアルコールは、解熱鎮痛薬の含有成分の吸収や代謝を促進することがあり、副作用の発現や毒性を増強することがあるため。
5. 長期連用しないでください	漫然と長期連用すると副作用があらわれるおそれがあることから、症状がよくなった場合は服用を中止し、症状がよくなる場合は医師や薬剤師などに相談することが必要となるため。

相談すること

使用上の注意

解説事項

1. 次の人は服用前に医師、歯科医師又は薬剤師にご相談ください	
(1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。	同種薬剤の重複投与や他の薬剤との相互作用等を引き起こすおそれがあり、服用前に医師、歯科医師又は薬剤師に相談してその指示を受けることが必要であるため。
(2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。	本剤の妊娠中の服用に関する安全性は確立しておらず、母体・胎児への影響を考慮すると、妊娠という特別な状況下では、薬剤の服用は慎重を期すべきであるため。また、動物実験（ラット）で胎児の動脈管収縮が報告されているため。
(3) 授乳中の人。	動物実験（ヤギ、ラット）で乳汁中への移行が報告されているため。
(4) 高齢者。	高齢者では、心臓・血管系の機能低下、動脈硬化等による二次的な高血圧、腎・肝機能の低下など生理機能の低下が考えられ、薬剤の作用が強くなる可能性があるため。
(5) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。	薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人はアレルギーを起こした薬剤並びにその類縁の薬剤を避けて服用する必要があるため。
(6) 次の診断を受けた人。 血液の病気、肝臓病、腎臓病、心臓病、気管支喘息、潰瘍性大腸炎、クローン病	これらの診断を受けた人が本剤を服用すると、プロスタグランジン生成抑制作用や薬物毒性などのために原疾患を悪化させるおそれがあるため。
(7) 次の病気にかかったことのある人。 胃・十二指腸潰瘍、血液の病気、肝臓病、腎臓病	これらの疾患の既往歴のある人が本剤を服用すると、プロスタグランジン生成抑制作用や薬物毒性などのためにその疾患を再発させるおそれがあるため。

2. 本剤のような解熱鎮痛薬を服用後、過度の体温低下、虚脱（力が出ない）、四肢冷却（手足が冷たい）等の症状があらわれることがあります。その場合には、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師又は薬剤師にご相談ください

非ステロイド性抗炎症薬は、急激な体温下降やそれに伴う虚脱等があらわれるおそれがあるため。

3. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性がありますので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師又は薬剤師にご相談ください

部位	症状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ
消化器	胃痛・腹痛、胃・腹部不快感、吐き気・嘔吐、胃のもたれ、食欲不振、口内炎、口のかゆき
精神神経系	眠気、口内しびれ感、指のしびれ感、声がれ、ふらつき感、頭痛、めまい
循環器	動悸
呼吸器	息苦しさ
その他	むくみ、発熱、鼻出血、味覚異常、脱毛、一過性の視力低下

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群（スティーブンス・ジョンソン症候群）、中毒性表皮壊死融解症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤等が持続したり、急激に悪化する。
胃・十二指腸潰瘍、消化管出血	みぞおち・上腹部痛を伴い、吐血や下血等の消化管出血があらわれる。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸（皮膚や白目が黄色くなる）、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。
紅皮症（剥脱性皮膚炎）	高熱を伴って、発疹・発赤、かゆみが全身の皮膚にあらわれる。
出血性ショック	脈拍数が増加し、顔色が青白くなり、手足が冷たくなり、冷や汗があらわれる。
血液障害 (再生不良性貧血、無顆粒球症)	のどの痛み、発熱、全身のだるさ、顔やまぶたのうらが白っぽくなる、出血しやすくなる（歯茎の出血、鼻血等）、青あざができる（押しても色が消えない）等があらわれる。
血液障害（溶血性貧血）	顔色が悪くなり、疲れやすくなり、だるさ、動悸・息切れがあらわれる。
腎障害	発熱、発疹、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛（節々が痛む）、下痢、尿量減少等があらわれる。
間質性肺炎	階段を上ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
うっ血性心不全	全身のだるさ、動悸、息切れ、胸部の不快感、胸が痛む、めまい、失神等があらわれる。
無菌性髄膜炎	首すじのつっぱりを伴った激しい頭痛、発熱、吐き気・嘔吐等の症状があらわれる。（このような症状は、特に全身性エリテマトーデス又は混合性結合組織病の治療を受けている人で多く報告されている。）
ぜんそく	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦しい等があらわれる。

これらの副作用は、特に早期発見、早期対応が重要な副作用です。このような症状があらわれた場合は、ただちに医師の診療を受けてください。これらの副作用の詳しい情報につきましては、以下に示す医薬品医療機器総合機構のホームページに記載されています。（http://www.info.pmda.go.jp/juutoku_ippan/juutoku_ippan.html）

4. 服用後、次の症状があらわれることがありますので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、この文書を持って医師又は薬剤師にご相談ください
便秘、下痢

医療用ミナルフェン錠100及びミナルフェン錠200の臨床試験でこれらの副作用が確認されたため。

5. 1～2回服用しても症状がよくなる場合は服用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師又は薬剤師にご相談ください（他の疾患の可能性も考えられます）

本剤は症状があるときのみに服用する対症療法薬である。1～2回服用しても症状の改善がみられない場合は、ほかに原因があることも考えられるので、服用を中止し、専門家に相談する必要があるため。

保管及び取扱い上の注意

- 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。
- 小児の手の届かない所に保管してください。
- 他の容器に入れ替えないでください。（誤用の原因になったり品質が変わるおそれがあります。）
- 使用期限をすぎた製品は、服用しないでください。